

# 北陸線

北陸線とは

- 一 北陸本線 米原、直江津間、二二八哩三分、及教賢、教賢港間一哩五分
- 一 小濱線 教賢、新舞鶴間五二哩四分
- 一 三國線 金津、三國間五哩四分、及貨物支線
- 一 七尾線 津幡、七尾港間三四哩四分
- 一 中越線 伏木、城端二三哩
- 一 水見線 伏木、水見間五哩八分
- 一 新湊線 能町、新湊間二哩五分

の總稱で、其本線は東海道本線米原から分岐し、琵琶湖岸に沿うて北して北陸に入り、露領沿海州との交通門戸たる教賢に至りて右し、福井、金津、富山を経て直江津に至りて信越線に接続して居る、其間教賢から分岐して新舞鶴に至る小濱線があり、金津から分岐する三國線があり、津幡から分岐して能登半島を縦断する七尾線があり、高岡から分岐して北は伏木南は城端に居る中越線があり、水見、新湊の輕便線が夫から岐れて居る。列車の運行は本線を経て上野姫路間一回、青森より奥羽、羽越、信越及本線を経て神戸に至るもの一回、新潟姫路間一回、富山姫路間一回、富山石間二回、直江津明石間一回、糸魚川明石間一回あり、外に富山神戸間及金津上野間には各一回宛の急行列車を運轉して居る

米原を後にすると汽車は直に琵琶湖の水光に接し、右窓には伊吹山の聳えて居るのが見える。七本鎗を以て名高い賤ヶ嶽や余吾湖を左にして進み、柳ヶ瀬隧道を過ぐれば地は既に北陸でやがて教賢の瓦葺に接するのである

教賢からは西に小濱線を岐ち、本線は北に向うて木の芽峠の山脈に數箇の隧道を穿つて居る。隧道の絶え間には風光豊くが如き教賢湖が見渡され、螺螺ヶ岳半島は近く呼ば、應に答へむとし、嶺に眼界の清新なるを覺ゆる、山間の一瞬を杉津と云ひ、絶壁の半腹に在りて眺望甚佳、本線中程に見るの好風景である。元比田の

隧道を過ぐれば鐵路は東に迂回し、今庄に至りて平野に入り武生を経て福井を指すのである。福井からは九頭龍川を渡りて向平野を走り、細呂木から國境に連なる山路を下りて加賀の大聖寺に至り小松驛から再び海岸に近づき、青松白沙の間吾海を望み、小舞子、美川の邊り展望殊に秀麗である

金津を後にすると河北湖の風光がある、津幡は七尾線の岐る、所で、本線は木曾義仲の奇捷を以て名高い俱利伽羅峠を越えて越中に入る、福岡を過ぐれば平野は漸く開けて高岡市に至る、茲から中越線が南北に岐れて居る。高岡富山の間、楡、樺等の雜木林が田野の間に散在し、茫々たる廣野の眺望を碍げて居る所があるこれは富山平野の特色であつて、前田氏が幕府に對する政略上造林したものだと傳へて居る

富山以東の地は高山峻嶺其南東に蜿蜒し、汽車は多く海岸に近く走つて居る。泊から境川を渡ると越後の國で、所謂日本アルプスの飛騨山脈の一脈日本海中に突出し、百尋の峻崖峭壁と爲り、巖に崖下の汀際一路を通じて居る、これが有名な親不知子不知の險で、今鐵道はこの絶壁を開鑿して敷設し、市振から親不知を経て青海に至る間七大隧道を穿つて居る。車窓の眺望頗る雄大怒濤眼下に咆哮し、悉に佐渡ヶ島能登半島と相對して、一對の青嶺を水天繋ぎの間に漂はせて居る。姫川を渡れば糸魚川、姫川の橋上よりは左に直に日本海の海光あり、右に飛騨山脈の重疊せるを見るべく、展望甚佳である。能生驛附近海中には數個の瓦巖が横はり、松樹海風に靡せられて、姿體奇怪愛すべき風光をなして居る。かくて汽車は名立川を渡りて鳥首崎を横断し、能津隧道を過ぐ、右に春日山城址を仰ぎつゝ直江津に著く

## 氣象

(大正十年)

地名	氣温平均	風平均方向	快晴日	曇天日	雨水日	曇風日
敦賀	四七・八	南	一一〇	一一八	一一一	一一〇
福井	四六・七	南	一一一	一一四	一一一	一一一
金津	四六・二	東	一一五	一一八	一一六	一一九
伏木	四五・六	南西	一一六	一二五	一二六	一三四

## 北陸本線

米原—直江津 二二八哩三分

【米原】まいはら 【長濱】ながはま 琵琶湖東第一の繁華地濱臨湖



の産地として有名である、其産額の六分は京都に行つて衣服地、友禪染となり、四分は大坂、神戸、名古屋、東京へ出ると云ふ

▼竹生島詣、この嶺からは長濱から行きかへりは大津へ出た方が好い、貨金三等四十六錢、二等七十錢、【木ノ本】(きのもと) ▼賤ヶ嶽と余吾湖、秀吉が柴田勝家を敗つた古戦場として、長槍を揮つて馳名を留めた七本槍の勇士の晴の舞臺として賤ヶ嶽の名は旅行者の心を暖らずには置かぬ、山は驛西三十丁山麓まで俵五十錢南は琵琶湖北は余吾湖に臨み、兩湖の隔障をなして居る、賤ヶ嶽登山の上余吾湖の風光を愛で、中ノ郷に出るは面白き散策である

【敦賀】(つるぎ) 三〇哩三 米原から約二時間、敦賀湖頭の良港、浦蘆斯徳へは毎週一回、北鮮の元山、城津、清津へは毎月二回の汽船渡りあり、大正十年の貿易額は輸出三百七十一萬圓、輸入三百三十二萬圓に上つて居る。地は三面山を繞らして海山の景勝に富む、港の内外にて見るべきは大島居て名高い官幣大社氣比神社西北十三丁、自動車俵共に廿五錢、後醍醐天皇の皇子尊良恒良の兩親王を祀つた官幣中社金崎宮西北二十五丁、自動車六十錢、俵四十五錢、敦賀灣一帶の風光一眸の下に見え、新田義貞が兩親王を奉じて孤軍奮闘した金ヶ崎城址も後方山頂に在り、歴史的回顧の念を起させる。氣比の松原は西二十六丁、自動車六十五錢、俵四十五錢、武田耕雲齋などを祀つた松原神社がある、上記の名所廻遊自動車賃切四人乗六圓、俵一圓七十錢、二時間乃至三時間で見物が出る。辨天島と常宮嶺には船から行くが面白く、船賃辨天島へ一圓五十錢、常宮へ二圓、俵によると辨天島へ一圓、常宮へ一圓五十錢、敦賀旅館館谷ホテル、具足屋、大黒屋、名物求肥昆布、豆落雁

小濱嶺 敦賀から西に分岐し、新舞鶴に於て舞鶴嶺と接続する嶺である、三方驛附近には三方、水月、久々子、日向の四湖相連綴して風景美を爲して居り遊覽船の設備もある、國幣中社若狭彦神社へは新平野か小濱からがよく、小濱は若狭第一の都會で山海の風景美あり、驛より十五丁の小濱公園は眺觀美もある、又梅田實濱の碑、佐久間艇長の銅像がある、外面は北海上五漕、

モーターボート賃切十五圓、外洋に面して斷崖二里の間、瀑布、洞穴、崎嶇多く、若狭第一の勝地である、小濱旅館、青濱館、世祖屋、名産若狭塗、若狭鯛、若狭鱒、若狭高濱は海山の景致あり、海水浴の適地で、北十五丁には城山の奇勝がある。西國二十九番の松尾寺は松尾寺驛から二十丁、青葉山の中腹に在る山はいはゆる若狭富士で寺の後から登られる、舞鶴灣を俯瞰する眺觀が佳い

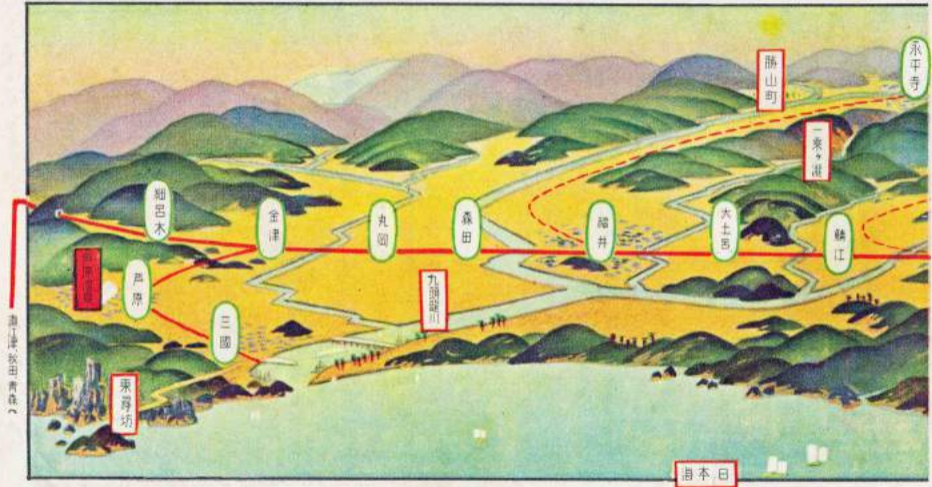
【武生】(たけふ) 旅館柳赤星、平野屋、古の府中で前田氏も嘗て茲に居た、此處から武岡輕便が岐れて岡本新まで六哩行つて居る、其五分市驛の近くには眞宗出雲路談の本山念禰寺があり、栗田郡驛の近くには醍醐天皇に因み深き花院公園があり、櫻花の名所となつて居る、又武生から福井に通ずる福武電線も長骨まで開通した

【鯖江】(さびえ) 驛の附近には眞宗誠照寺の本山の誠照寺と、同山元派の本山の澄誠寺がある、旅館深山、山口【福井】(ふくい) 六八哩八 米原から約三時間半、足羽川の流に沿うた越前平野の中心地である、昔は北の庄と云つて柴田勝家の據つたところ、松平氏が此處に封を受けてから今の名に改めて北陸の雄藩(石高三十二萬石)として知られて居た、今人口五萬九千五百人を有

# 嵐

し、羽二重の産出多く絹織物の産額は全國第一位を占め、機業場市の内外に散在して居る。市内にて見るべきは福井城址西三丁、城内藩祖を祀つた佐佳枝神社がある、足羽山公園は西南十五丁、市の瓦葺から三國港頭まで見渡され、山の東面には新田義貞及一族を祀つた別格官幣社藤島神社がある、眞宗三門徒談の本山孝照寺は西南半里、商品陳列所は西十六丁、以上巡遊約三時間で充分である、市内旅館名和屋、月見屋、幾代、花月、名産雲丹、蟹味噌、羽二重 ▼永平寺詣、東北四里自動車の便もあるが、大方は越前電氣の電車で行く、電車は福井から大野三番まで二二哩八分の間開通して居るが、寺は其永平寺驛から東五十六丁、自動車往復一圓十錢、寺は云ふ迄もなく曹洞宗の大本山で、枯木寒岩の色鳥聲風韻の昔自ら俗塵遠く堂塔伽藍宏大である、信徒は寺内に宿





源平争戦の地



泊を請ふ便宜もある。  
福井市は福井縣所在地で、舊は越前、若狭兩國を管轄して居る、縣の西半は若狭府に属す、實質、小浜の兩市あり、實質は日本海沿岸第一の良港である、東半は主として丸岡川及支流、日野川の流域で産業繁に、福井は村二重兩縣の中心地である福井國に冠絶して居る。

輸出向羽二重の主要産地 (大正十年)  
石川 一六八七六、〇七二圓  
富山 九九四、七八六圓  
全 國 六〇、六二〇、五三〇圓

白絹類の絹織物主要産地 (大正十年)  
石川 三七二九二、二二二圓  
全 國 一三七、四四八、二二四圓

襪子類絹織物の主要産地 (大正十年)  
石川 三、四六四、〇五一圓  
全 國 一〇、二八九、四二八圓

【丸岡】(まるまわ) 七六哩二 丸岡鐵道が本丸岡まで二哩七分走つて居る、霞ヶ城址は本丸岡から六丁、三層天守閣の古建築がある

【金津】(かねつ) 八〇哩 三國線の分岐點で、同線は蘆原を経て三國に至る短支線である、蘆原は温泉として榮え、開化亭、紅葉、つるやなどあり、三國は九頭龍川口の港で、北一里には東尋坊の奇勝がある、自動車三圓五十錢、海岸は海水浴に適し、譯から十五丁、夏期は海水浴場から東尋坊へモーターボート廻遊切四圓

三國旅館、宮太、池上、名物雲丹【大聖寺】(たいしやうじ)【動橋】(どうはし)【粟津】(あはづ) 以上三驛とも温泉電軌電車の接續點で、山中、山代、粟津、片山津、浴泉客の下車驛である、大聖寺からは山中へ電車廿九錢、動橋からは山代へ電車十六錢、自動車六十

五錢、片山津へ電車十三錢、自動車四十錢、粟津からは粟津へ電車十二錢、自動車四十錢であるが、電車は温泉から温泉へと接續運輸をして居るから便利である。山中は名の如く山中の温泉で越前橋の奇景が知られて居る、旅館はよしのや、三谷屋、五明館、魚屋

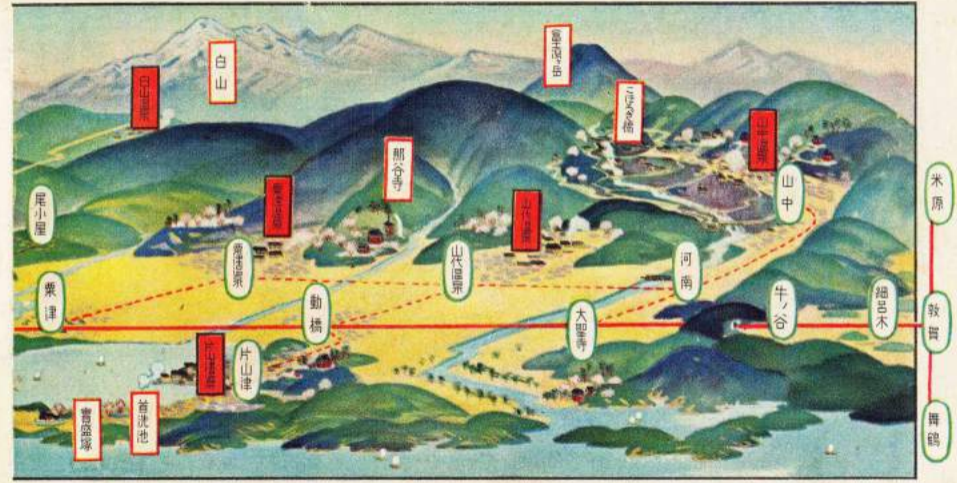
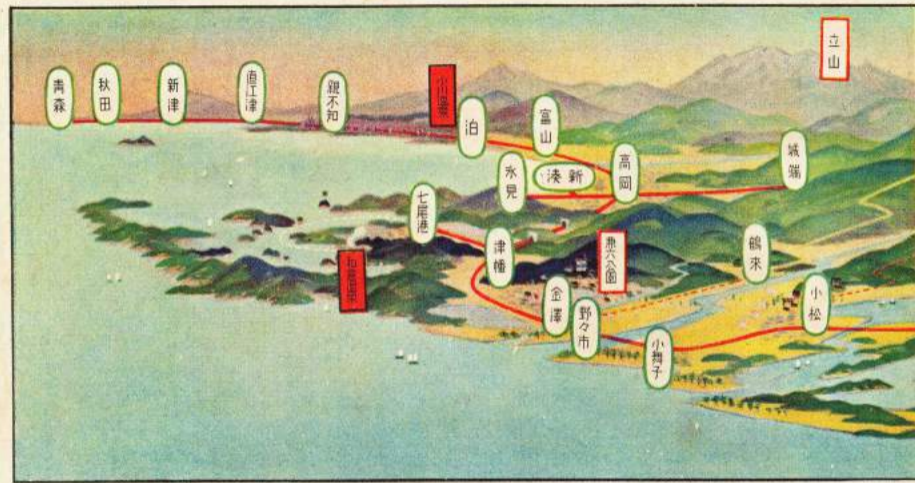
山代は平野の温泉で旅館はあらや、くらや、大野屋。片山津は榮山海に臨んだ景勝地で旅館は矢田屋、森本、湯の出。粟津近くには那谷の觀音堂あり、旅館は法師、嘉宮、坂田屋、山下。この四

温泉に加へて蘆原、和倉、小川、黒部の諸温泉を巡遊するは、北陸線旅行者の最樂しみとする所で一週間もあれば充分である

白山附近交通地圖



▼吉崎御坊から蘆原へ、吉崎御坊は連如上人計造布教の址で中西兩本願寺の別院があり、北湯の入江に臨んで居る、大聖寺からは西南一里半、自動車六十錢、其處から舟を雇うて細呂木に出て細呂木驛に出てもよし、又舟で小牧まで渡つて蘆原温泉へも出られる小牧から蘆原まで三十丁【小松】(こまつ) 動遊帳で名高い安宅の關址は西北一里安宅町の海濱であつたと云ふが、漸次海中に没して今は殆ど其址が無い【小舞子】(こまじり) 驛は白砂青松の中に在り、毎年七月一日より九月十五日まで假驛を開いて海水浴客の便を圖つて居る【松任】(まつたに) 茲から金津に至る松任電車がある【野々市】(ののいち) 一一四哩二 茲から鶴來まで七哩三分





西金澤まで一哩八分の金澤電気軌道線がある。▼白山登山、鶴来まで軌道賃金三等三十四銭、鶴来から東南十五丁には國幣中社白山比咩神社がある。鶴来から馬車は吉野まで三里賃金六十五銭、俣は島まで九里七圓、島から牛ヶ首まで一里自動車四人乗貸切二十圓、福井からすると越前電軌で懸山まで電車六十銭、懸山から牛ヶ首まで五里餘、河合まで二里俣一圓五十銭、河合から谷峠を越えて行く、牛ヶ首、路は險しくなり四里にして白山温泉に達す、温泉から頂上まで二里半、彌陀ヶ原附近黒百合、野風仙花などの高山植物鑑賞し、雷鳥の踊翔する盛況らし、室堂からは火山岩の磊々たる間を攀ちて絶頂白山本宮に達す、海拔八千八百六十七尺加越能美越の諸州眼下に在り、登山期七月十八日から九月一日迄【金澤】【たがは】一一六哩四 米原から約六時間、金澤は元前田氏百萬石の城市で、犀川、淺野川の流域を占め、外國貿



兼六公園之圖



易の卒先者、錢州五兵衛の居住した金石港を西北に控へ、人口十三萬六千人を有し、北國第一の都會である、産物には羽二重を始め、絹織物、漆器、銅器、陶器を出し、商況活潑である。名

物には御所落雁、梅精、胡桃漬、深山の雪、蘇の佃煮、饅餅、錢五餅等あり。市の中央に一丘陵の連立して居るのは即ち舊金澤城址で、只有名なる兼六公園のある處である、園は驛の東南十八丁電車七銭、俣四十銭、日本三公園の一として知られて居る。文政元年前田齊廣の經營せられた所で、宏大、幽邃、人力、蒼古、水泉、眺望の六勝を兼有して居ると云ふので、松平樂翁公が命名せられたものである。池沼あり、瀑布あり、松林鬱葱、花木妍麗、泉石亭附皆雅致を極めて居る。山に紅葉山、福壽山、蟻蝶山あり、池に霞ヶ池、瓢ヶ池あり、瓢ヶ池の畔珠に幽窓を極め、瀑あり、翠瀨と稱し、これに對する一小亭を夕顔亭といふ、結構頗る古雅である。これより北に進めば樹木愈々蒼鬱、人をして身の公園中にあるを忘れしむるのである。霞ヶ池の畔春花秋葉の美あり、又眺望に富んで居る、花期は四月上旬から下旬まで。池に近く唐崎の松の種子を植ゑたる老松と、有名なる燈籠燈籠とがある。其の他曲水の興趣掬すべきあり、鶴亀島の隠園、萩に宜しきあり、龜甲橋附近の杜若に宜しきあり、四季遊杖を曳くに足るのである。園に隣れる樓閣は、曾て藩主夫人の隠栖に充てた成巽閣で、結構甚華麗である。市内には電車が通じて居り、遊覽三四時で充分である、其他見るべきは卯辰山東二十町、金澤城と相對して居る、金澤の市街から近峙遠居の翠、日本海の瀾波、河北湯の藍碧、皆一眸の中に集まる。野田山は南一里、藩祖利家以下歴代の墳墓がある。別格官幣社尾山神社は東南十二町、社地は舊前田家の別第で館を金谷と云ひ其風景を皆樂器に擬り、泉水筆山を設けてある。西本願寺別院へ東五丁、東本願寺別院へ東八丁、天徳院へ東南一里、第九師團司令部は東南十二丁、舊城内に在り。石川縣廳、市役所、第四高等學校、金澤醫科大學、商品陳列所等舊城近くに散在して居る。市内旅館古今亭、大浦屋、雨屋、源圓、塚本

歩道市は石川郡所在地で、郡は別置、定置兩國を管轄して居る。東南には山

津路の主要産地

(大正十年)

石川	四、〇九六、五九九	粟	二、八七六、三八五
和歌山	一、八八三、四四七	米	一、八二二、七五〇
和歌山	一、四八二、九四四	全	二、三三九、八五一

【津路】(つばと) 七尾線の分岐點

七尾線 この線は津路から北に岐れて羽咋からは越知湯に滑

うて走り、實の如き風光美を有する七尾灣頭の七尾港に至る三

四哩四分の支線である 【本津路】(ほんつばと) ▼河北潟西三十

丁 【横山】(よこやま) ▼木津桃林、群附近一帯、花期四月中旬

【高松】(たかまつ) 八哩九 ▼海水浴場八丁 【寶達】(ほうたつ)

▼寶達山、東二里、麓迄俵五十錢、能登第一の高峰、海拔二千二

百四十三尺、眺望美に富み、頂上に寶達遺蹟を祀る、山中蘆草

が多い ▼木森城址、東北二十五丁、俵三十錢 【羽咋】(はくり)

一八哩五 能登鐵道は此處から氷見、輪島へ向つて走る豫定で

ある、旅館御亭、林又 ▼磐衝別命、磐城別王の御陵西三丁

▼國幣大社氣多神社北西一里、自動車三十五錢、俵六十錢、祭

神大己貴大神、後に磐若たる森林を負ふ、攝社若宮神社の社殿

は特別保護建造物、什寶の中後奈良天皇の宸翰は國寶となつて

ゐる、例祭四月三日 ▼日蓮宗本山妙成寺北二里、自動車七十

錢、馬車三十五錢、特別保護建造物九棟、國寶二點あり、途中

柴垣海濱は風光が好い ▼高濱町、西北四里、自動車一圓四十

錢、馬車六十錢、風光美を有し海水浴に適す 【金丸】(かねまる)

▼永光寺、俵八十錢、曹洞宗の瓦刹 【夏川】(なしかは) 二七哩

三 石動山、東二里八丁、能登第一の峻嶺、頂上に伊須津岐比

古神社がある 【七尾】(ななえ) 三三哩六 日本海岸の良港、大

群七尾港の終點驛あり、能登島前面に横はり、山光水色の美あ

り、大正十年の貿易額輸出四千圓、輸入七十八萬圓に上る。名

物大豆船、旅館恵比壽屋、小山屋 ▼七尾城址、東南約一里、途

中古府迄自動車賃切二圓五十錢、俵五十錢、上杉謙信の秀跡、越

山併得能州景は此處で吟じたものである、眺望が好い ▼和倉

温泉西北二里、自動車七十錢、俵一圓四十錢、七尾港群から汽

船三十五錢、温泉は辨天崎の尖端にあり、屏風崎前面に横はり

帆島、種ヶ島、猿島の青螺を控へて風光が好い、旅館和歌崎、

多田館、あさひや、小橋 ▼九十九灣めぐり、海上約二十哩、

小木港迄汽船一等二圓十五錢、二等一圓六十五錢、三等一圓二

十五錢、約三時間、一日二回相互往復してゐる。船上能登灣の

長汀曲浦、綠翠滴る鳥嶼送り迎へて倦くを知らない。小木港は

山陰美保ヶ國に似た處で、町の背後に九十九灣の絶景が秘めら

れてゐる。徒歩約三丁 舟便約四丁で達する。灣の廣袤東西二

丁半から七丁半、南北約十二丁の小灣ではあるが、海岸線は約

一里あると云ふから加曲の度も想像に餘りある。俗に九十九曲

りと稱し、灣名も之れに起因したのである。灣口に日和山と云

ふ好い展望臺がある。此處から眺めると左方灣を俯瞰し、右方

日本海の大海岸を一眸に眺められる。灣の中央に蓬萊島の翠盤

あり、鶴舞ひ下るを以て一層景を美化してゐる、旅館石岡

【石動】(いさごま) 一三一哩八 加越鐵道の分岐點、青島町まで一

二哩一分閉通して居る、賃金三等四十九錢 【高岡】(たかおか) 一

四一哩八 米原から七時間 北陸屈指の都會、

人口四萬二千人を有し漆器、銅器、鉄器、毛

斯支輝、綿糸を産す、市内にて見るべきは櫻の

馬場から國幣中社射水神社のある舊城址たる高

岡公園、瑞龍寺の古建築、物産陳列所などで約二時間で見物が出

来る、旅館木津樓、梅松園



中越線 高岡から、南は加越鐵道の接続點福野を経て城端ま

で、北は伏木まで行つて居り、其能町からは新湊線を岐ち、伏

木からも赤水見線が雨晴、鳥尾を経て氷見まで行つて居る、雨

晴附近は奇岩突出し、海は遠淺で波靜に、海水浴に適し、源藏

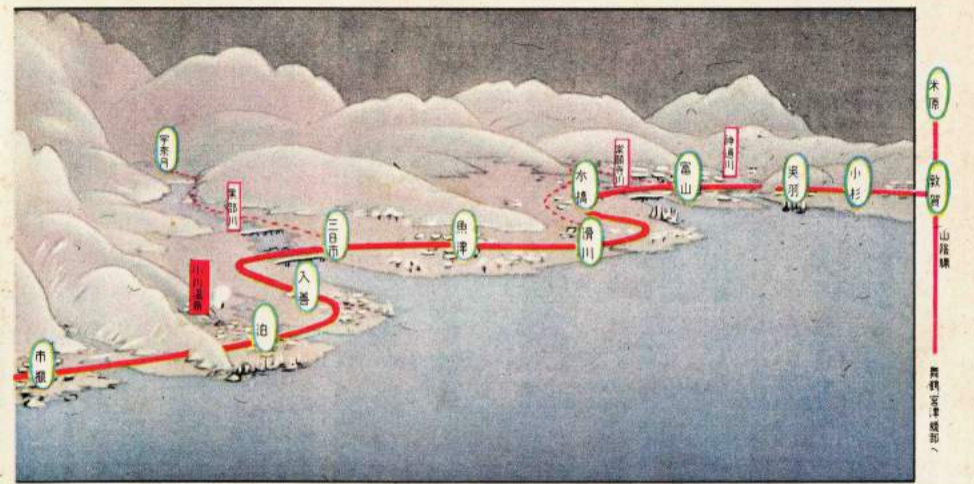
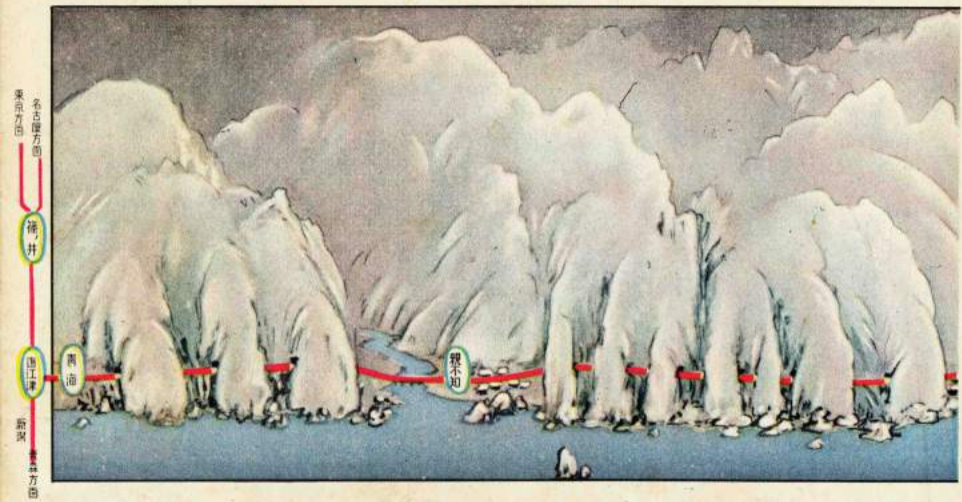
經の傳説を残せる雨霞の岩がある。鳥尾には省經營の鳥尾遊園

あり、能登の翠嶺を望む白砂青松地で、南越中の佳境である。

伏木は開港場で大正十年の貿易額は輸出五十五萬圓、輸入八十

二萬圓である、旅館井上、定塚







〔富山〕(フクヤマ) 一五三哩五 米原から七時間半、もと前田氏支藩の地、神通川に跨り越中平野の中央に在り、人口六萬七千人を有して居る、此市の賣樂は其名四方に聞えてどんな田舎に行つても反魂丹や、熊鷹丸、感應丸等の名を知らぬものはなく、遠くは支那、西伯利亞、布哇へも輸出して居る、羽二重其他の絹織物も近年評價を高めて来た。富山鐵道は驛前より堀川新を経て神通川上流の景勝地にして山國飛騨に入る關門たる梓津まで一〇哩八分間通して居る、貨金三等四十四錢、二等八十八錢。富山縣管鐵道は其堀川新から岩崎寺で滑川から来る立山鐵道と接し、千垣まで十二哩一分間通し、富山からの立山登山道となつて居り、將來千垣から山笠橋まで二哩の間通を見る筈である。市内にて見物すべきもの神通橋、英羽山公園、賣樂會社賣樂堂など、旅館富山ホテル、富山館、舟山館、▼立山登山、東南十六里、古來富士、白山と並稱せられて日本三山に數へられて居た、登山往復三四日を要す、富山からは富山鐵道で南富山の堀川新に行き其處から富山縣管鐵道に乗りて千垣に行く、堀川新まで三等十三錢、二等二十六錢、堀川新から千垣まで三等四十九錢、二等九十八錢、滑川驛から立山鐵道で行く人は立山(岩崎寺)で縣管線に乗換へねばならぬ、滑川立山間一三哩、三等五十二錢、二等一圓四錢、千垣から蘆橋までは二哩工事中である。蘆橋からはやがて急峻なる材木坂を攀ち、面積三平方里、世界的スキー場として名高き瑞西のサンモリツツスキー場に譲らずと云ふ、廣濶なる偏陀ヶ原を經、直下千三百五十尺の稱名澁を見つゝ海拔八千尺の室堂に行く。堂は數百人を宿泊させることが出来る、其傍には高山氣象觀測所があり電話も架せられてある。此あたり無數の高山植物あり、千紫萬紅儼然たり、名高い地獄谷は堂の北八丁、熱氣常に噴出して地底沸沸たる響を聞く、淨土山を經て絶頂に上ると手力雄命を祀つた雄山神社あり、海拔九千九百尺、七十二峰の稱ありて雄大なる眺觀比肩すべきものなく、信越濃飛其他日本中部に於けるあらゆる高峯を見、天際遙に富嶽を仰ぎ、日出の大觀言語に絶す。千垣から獨

立山登山地圖

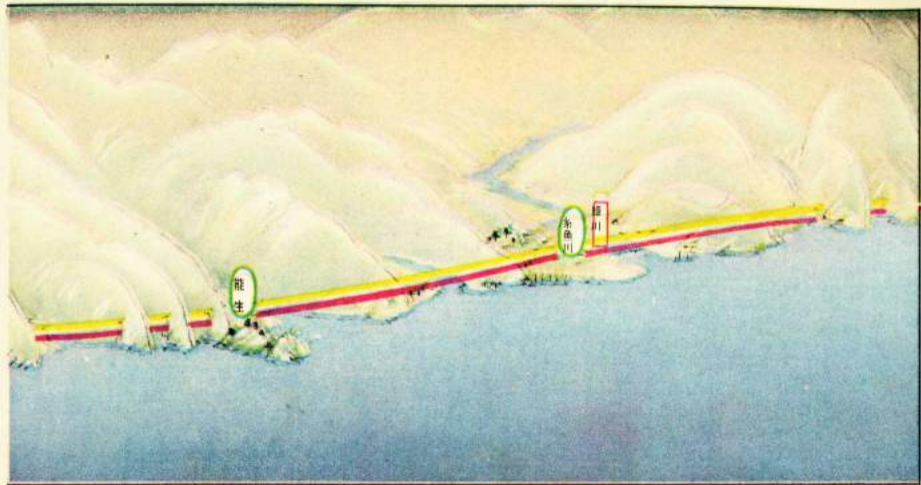
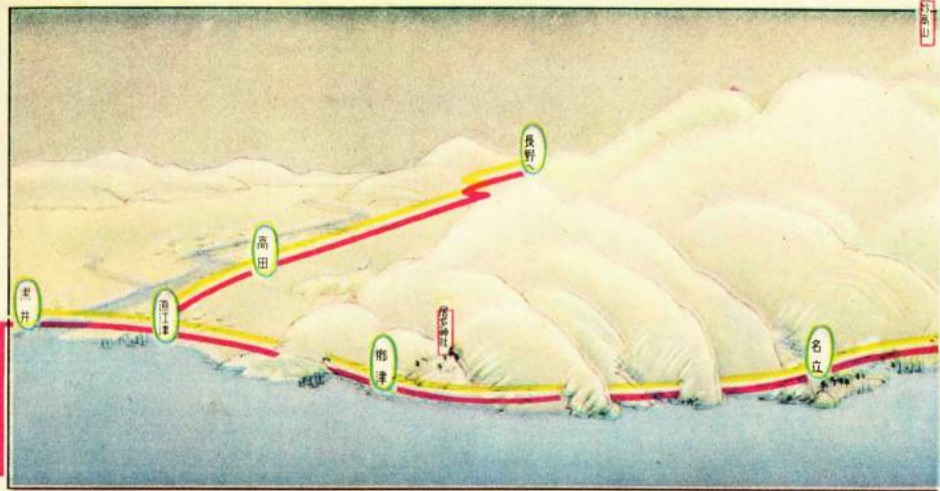


陀ヶ原まで四里半六時間、室堂まで八里九時間、頂上まで九里十時間で行ける。歸路は別山に廻りて險阻な松尾坂を下り、立山温泉に一泊し、常願寺川の豁谷を過つて蘆橋に出るが好い、登山期は七月廿五日から九月十日まで

富山市は富山縣所在地で、縣は越中國を管轄して居る、三面山を隔ちて北富山側に臨み、神通川、射水川下流の沿岸には富山平野ありて米の産が多い、飛騨山脈中立山は特に世に知られ、黒部川其間より出で、深き峡谷をなして居る、富山市は古より賣樂堂を以て名高い又村二家の機織が盛である、高岡には銅器、漆器の産あり、花水産は米を輸出すこが多い

鐵道用紫雲英の主要産地 (大正十年)

富山	三、九一六、六一四	新木	一、九一一、三四七四
富山	一、三〇二、五三四四	長野	一、一五七、二七〇四
富山	九八八、四八三四	全野	一、三二七、九三三〇



【滑川】(なりのがは) 一六四哩一 富野より魚津の海岸は世界に稀なる養鳥の産地である。漁期は四月から六月まで、網を引き上げるには毎夜十時前夜で恰もイルミネーションの様な美観を呈する。立山鐵道は故より立山まで一三哩三等五十二錢、其沿線には眼目山立山寺、大岩山日石寺の勝地がある。滑川名物辨慶海老、養鳥賦、旅館東勝亭【魚津】(うをづ) 滑川からこの驛附近の海上は蟹氣様が現はれるので有名である。春夏の交水蒸氣の最多い時期に朝霞暮靄の間に見ゆることあり【三日市】(みっかいち) 一七三哩三 黒部鐵道分岐點、同線は宇奈月まで九哩七分賃金五十五錢、宇奈月には黒部から引揚した黒部温泉がある。附近はスキーの好適地として知られ就中宇奈月臺附近が有名である。黒部温泉から更に黒部峡谷を辿ると約二哩の奥には黒部、二見の二温泉あり、約四里半の奥には新鐘釣、鐘釣温泉あり、其處から更に猿飛の奇勝を経て祖母谷は二哩の奥、其又奥の無人の靈境仙人谷には花崗岩の窪みに湛へた天然浴槽もあるが、殆ど世に知られぬ神祕境である【泊】(とまり) ▼小川温泉、東半里自動車三十錢、有磯海を見渡した眺が好い、親不知子不知は浴客一日の敷地地である、旅館小川温泉株式會社旅館【親不知】(おやしらず) 一九五哩二 市振から親不知に至る間、飛騨山脈の末端の海に入る處、親不知の險がある、峭崿巖峙約一里、道路屢波に犯されて没し、行人渡の間を覗つて走り過るのである、若し風潮猝に襲ふ時は避けて岩窟に逃がる、是時に方て歩武の遅速は忽ち死生の境をなすので親は子を省み、子は親を思ふの暇がないのである、秋冬の交朔風海を捲き怒濤激蕩すれば往來通ぜず、北陸第一の危險である、今鐵道は山の半腹を穿つて通じ、往時險難の場所も車窓より望見することが出来る、驛の東三丁に鐘岩、東八丁に駒返しの奇勝がある【桑魚川】(いといがは) 二〇二哩六 姫川の河口東邊に在り、元松平氏の城邑である、この方面からの日本アルプス白馬山登山口である糸魚川から姫川に沿うて進むと五里半にして平岩温泉あり、此處で強力を雇ひ、約四里にして蓮華七湯に達す、夫れより大蓮華の白馬山頂まで約三里、石室あり三十人を容るべし、翌朝日の出を拜し小蓮華を経て約三里にして蓮華七湯に歸る、又白馬山から乗鞍

を経て大野川に出で松本に出てもよい ▼小谷温泉、南六里、内三里驛を通ず、海拔三千五百尺、避暑に適する【彌彦】(やうづ) 二二五哩四 居多濱の小澳で近時築港の計畫がある、居多神社は東二十五丁、居多濱の松山に在り、上越後第一の名刹である【蓮江津】(はづえつ) 二二八哩三 信越本線接續點

金 澤 方 言

- アカニシ(吝嗇者) ハチヤクチャモノ (魚販者)
- コナタナ(小刀) ホウケ(蕪) ダラ(船懸) ガマ
- (横濱) セゴカズキ(尙儀) ヘチャ(下手) オン
- ドベ(尻) オチャバヤシ(酒) ゴメク(泣く) ヤ
- ンチャーナ(不潔) アセナイ(忙しい) ウザクラ
- レイ(駄い) (イロクナ(滑稽な) (ウツチャベコ
- イ(扁たい) オロカナ(柔順な) ケチナ(奇體な)
- ハンバナ(疎忽な) ケナルイ(羨い) (ヘシナイ
- (持遠い) モギシナイ(無情な) セノイ(辛い)
- マブイ(眩い) アダケル(睡ぐ) アネサン(おか
- みさん) アンニヤマ(ねーさん) アンマ(にいさ
- ん) オイサン(おくさん) ジョーロサン(おじや
- ろさん)